

新宗教センター紹介

青山キャンパスの宗教センターは、今年の9月2日と3日で間島記念館からスクーンメーカー記念館(旧女子短期大学図書館)に引っ越しをしました。

新しい宗教センターは、スクーンメーカー記念館の地下1階から地上3階までを使用し、学生ラウンジ、学生集会室、器楽練習室、ウェスレー図書室、事務室、祈祷室、教員研究室等を有し、キャンパスミニストリー(キリスト教活動)に相応しい活動拠点となりました。

宗教センターは、たくさんの人のお祈りと献金により1968年に建てられ、現在は残っていない「ウェスレーホール」(旧東門付近・現在幼稚園敷地内)から始まり、その

後、「間島記念館」→「ウェスレーホール」→「間島記念館」、そして今回、「スクーンメーカー記念館」へと何度か移転してきました。

青山学院に集うすべての人々にキリストの福音を宣傳伝え、キャンパスミニストリーを展開するために、更なる環境整備をしていきます。

スクーンメーカー記念館は、ジェンダー研究センターとも建物を共有しています。ジェンダー研究センターと共に、これからも、一人ひとりの個性を大切に違いを理解しながらグローバルな視野を養うことができる環境を創っていきます。宗教センターは、子どもたちや学生が、将来社会で活躍する際、他者を理解し国際的感覚を持ち、福音の種を蒔き続けるような人材を養うために、この場所を有効活用したいと思います。

事務長 渡辺 恵



上：スクーンメーカー記念館
中：事務室
下：集会室

シャローム・ライブラリー

大学宗教主任 シュー土戸 ポール

青山学院の建学の精神を体現する象徴的なスペースとして、新たに開設された「シャローム・ライブラリー」が、大学新図書館の入るマクレイ記念館の2階に誕生しました。

このコレクションには、2017年に閉館した東京・銀座の「聖書図書館」が所蔵していた世界各地の聖書コレクション2726冊が、一般財団法人日本聖書協会からの寄託により収蔵されています。グーテンベルク聖書（複製版）をはじめ、江戸時代の日本語聖書や明治時代のアイヌ語聖書など、ラテン語から多様な部族語にわたる500以上の言語で記された聖書が集められています。さらに、ジョン・ウェスレーやメソジスト教会に関連する書籍の充実も考えており、信仰と学問の交差点として重要な役割を果たしています。

シャローム・ライブラリーは、本学の学生はもちろん、研究者や一般の来館者にとっても、平和への祈りを込め、青山学院の精神に立ち返る象徴的な場所となることが期待されています。ここはまた、知の新たな拠点として、信仰と学問を結びつける役割を果たす場でもあります。

さらに、開架されてはいませんが、稀覯本とされる貴重な聖書コレクションも保有しており、定期的に展示を行い、学生や来館者が直接その貴重な資料に触れる機会を提供しています。ライブラリー内には、相模原キャンパスのウェスレーチャペルにも作品を手掛けた滝澤やまと氏によるスタンドグラスが展示されており、美術館のような美しい空間が広がっています。

中には勉強するスペースも用意されていますので、貴重な本に囲まれながら、学業に励むことができます。



創立150周年記念諸行事報告 (実施済のみ)

狂言「復活」公演

(4月27日(土)、青山学院講堂)

校友の和泉流宗家皆様をお迎えして、「キリストの復活」の狂言を公演していただきました。



バッハ・コレギウム・ジャパン レクチャー・コンサート

(7月13日(土)、ガウチャー記念礼拝堂)

クラシック音楽を通してキリスト教音楽への理解を深めるコンサートで、バッハの音楽において世界的に活躍しているバッハ・コレギウム・ジャパンの鈴木優人氏をお招きし、講義と演奏をしていただきました。



オール青山ハンドベルコンサート

(9月21日(土)、青山学院講堂)

39回目のオール青山としてのコンサートを、初等部、中等部、高等部、大学、同窓会、系属校が参加して、実施しました。



福本茉莉パイプオルガンコンサート

(10月26日(土)、ガウチャー記念礼拝堂)

校友の福本茉莉氏をお迎えして、オルガン演奏とお話をしていただきました。

